

翔

百万石蝶談会

No. 146

October 2000

- 能登地方でシータテハの夏型を採集
- ニホンカモシカの死骸に群がる蝶類 (2)
- 石川県産マグソクワガタの追加記録と一知見
- ドイツとスイスアルプスに蝶を追って
- 1999年沖縄石垣西表採集記 (その2)



能登地方でシータテハの夏型を採集

松 井 正 人

能登地方の七尾市に近い鹿島郡鹿島町の石動山頂上で、シータテハの新鮮な夏型を採集したので報告する。この日は、梅雨が中休みした蒸し暑い日で、社を造っている材木には、ミドリヒョウモンやヒオドシチョウが止まって何やら吸汁していた。シータテハも幾度か社に止まったが、吸汁は観察できなかった。

能登地方におけるシータテハの記録は、羽咋郡志賀町の1例しか無く（江口, 1991）、金沢市以北においても、河北郡津幡町の1例（越虫編集部, 1992）と金沢市の1例（松井, 1992）が知られているに過ぎない。しかも、志賀町と金沢市は5月初旬の記録で越冬あけの個体、津幡町は9月下旬の記録で越冬をひかえた秋型の個体と、いずれも越冬関係の個体で、現地で発生したものでは無く、越冬のために本来の生息地から偶発的に飛来した個体と考えられていた。

今回の新鮮な夏型個体によって、能登地方におけるシータテハの発生が、十分考えられることとなった。

2000年7月1日 石川県鹿島郡鹿島町石動山頂上 1頭採集 松井正人

《参考文献》

江口元章(1991)能登におけるシータテハの記録. 翔(93): 2.

越虫編集部(1992)1991年の活動報告. 越虫(23): 1-5.

松井正人(1992)石川県のタテハチョウ4. 翔(99): 1-4.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

羽咋郡志雄町でオオムラサキの飛翔を観察

松 井 正 人

2000年の今夏、羽咋郡志雄町でオオムラサキの飛翔を観察した。押水町以北の能登地方でオオムラサキが観察されているのは、珠洲市、輪島市、鹿島郡鹿島町、羽咋郡志雄町、羽咋郡押水町の5市町しかなく、1991年以降の観察となると志雄町が唯一の観察地となる。その他の市町においても、輪島市の石畑正夫氏や日吉芳朗氏、鹿島町の尾田良知氏等によって調査は続けられているが、観察には至っていない。

このような状況にあって、志雄町の記録は最近観察された中では石川県の最も北の記録となる。

2000年7月22日 石川県羽咋郡志雄町当熊 1♂目撃 松井正人

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

ニホンカモシカの死骸に群がる蝶類（２）

嵯峨井 淳郎

嵯峨井(1998)に、同名タイトルで、石川県石川郡河内村板尾地内での目撃事例を２例報告した。1999年も同様の死骸に群がる蝶を確認したので報告する。

1998年秋の集中豪雨により崩壊した板尾川林道の補修工事完成後のコンクリート壁に、４頭のスミナガシと越冬アカタテハが静止しているのを採集。通常、スミナガシを目的に採集を試みても、なかなか姿を見つけることの少ないスミナガシが４頭も止まっていた。これはしめしめとばかりに、三角紙の中へ。何気なくコンクリート壁（高さ５m）の下方の川原を見降ろしたところ、川原にもたくさん飛翔する中型の黒い蝶が目に入り、ついでにそれも戴こうと川原に下りたところ、散乱するニホンカモシカのアバラ骨と足骨と爪に啞然。周辺には実に９頭のスミナガシを確認。しかし、もうネットする勇気は無く、ただ数えるだけ。

今回の事例は、死骸そのものが相当日数を経過していたこともあって、人間の鼻にはそれほど臭いは感じなかった。

◆ 1999年５月２９日 石川県石川郡河内村板尾 嵯峨井淳郎 目撃
スミナガシ ９頭、サカハチチョウ ４頭、ミヤマカラスアゲハ １♂

《参考文献》

嵯峨井淳郎（1998）ニホンカモシカの死骸に群がる蝶類．翔(135): 5．

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷 3-18-2》

白峰村三ツ谷でクジャクチョウを採集

嵯峨井 淳郎

1999年９月５日10時30頃、白峰村三ツ谷の西俣川沿いで、石川県では比較的稀なクジャクチョウを採集したので報告する。

1999年９月５日 石川県石川郡白峰村三ツ谷西俣川 ２♂採集 嵯峨井淳郎

目撃確認数は５～６頭で、９月とはいえ現地は雨上がりでかなり蒸し暑く、水溜まりに吸水するもの、水分を含んだ枯れ草（モヤが立ち昇っていた）に吸汁するもの等が確認されたが、筆者の腕の悪さから２頭のための採集にとどまった。

なお、４～５年前にも当地三ツ谷にて本種を目撃確認している。

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷 3-18-2》

石川県産マグソクワガタの追加記録と一知見

井 村 正 行

石川県の本種は、40年ほど前に林 靖彦氏が鳥越村左礫において採集された以後、記録が無かったが、今回複数の本種を採集することが出来たので、確認された生息環境とともに報告する。

マグソクワガタ *Nicagus japonicus* Nagel

2000年 6月 4日	石川郡白峰村風嵐手取川河川敷	3 ♂	井村 正行 採集
2000年 6月 4日	石川郡白峰村風嵐手取川河川敷	2 ♂	野中 勝 採集
2000年 6月 4日	石川郡白峰村風嵐手取川河川敷	2 ♂	中西 重雄 採集
2000年 6月 5日	石川郡白峰村風嵐手取川河川敷	3 ♂	井村 正行 採集
2000年 6月 5日	石川郡白峰村天狗壁手取川河川敷	1 ♀	井村 正行 採集

今回採集された♂は、全て発生場所と思われる狭い場所で、露出した流木、草の根際、砂の上などで、静止していた個体であった。また、本種の生態は、最近よく調べられ、その幼虫は、砂に埋もれた流木を食す事も判明している。今回採集された環境は、川の水位より70～80cm上がった場所で、直径3～4cm前後の流木が堆積した上に、細かな砂が覆い被さって、草が疎らに生えており、一部流木が露出していた所であった。また砂の内部や、埋もれている流木は、十分に湿っていた。残念ながら、ここでは♀は見ることは出来なかったが、天狗壁の少し上流部の河川敷の藪では、林縁を飛翔していた♀を採集することが出来た。

この報文を書くにあたり、発表を心よく承諾された、野中 勝、中西 重雄の両氏と、生態について色々と御教授していただいた三重県の、秋田 勝己氏に心より感謝申し上げる。

《 参考文献 》

林 靖彦(1962)マグソクワガタを石川県で採集する. 昆虫学評論, 14(2):66.

《いむら まさゆき 〒920-0211 金沢市湊2-116-70》

ナカブサツチビロウドムシの追加記録

井 村 正 行

ブナの立枯木にいたものを採集したが、記録が大変少ないようなので記録する。

ナカブサツチビロウドムシ *Dendroides nakabusana* Kono

1999年 7月11日 石川県石川郡白峰村白山釈迦林道 (alt. 500m) 1 ♂ 井村正行

《 参考文献 》

高羽正治 (1998) コウチュウ目アカハネムシ科. 石川県の昆虫:190-191. 石川県.

《いむら まさゆき 〒920-0211 金沢市湊2-116-70》

ドイツとスイスアルプスに蝶を追って

石 畑 正 夫

2000年5月6日から9日間のドイツとスイスの旅に参加した。外国のツアー旅行には自由な時間が取れないのが常識であり、また、ドイツは自然保護が厳しい国と聞いていたが、それでも密かに期待して出発した。

第1日は早朝に関西空港を出発し、午後2時半フランクフルト空港着。入国手続きを済ませ、迎えのバスで市内見物の後、郊外にあるノボテルエッシェボーンホテルへ着いたのは午後6時前。外はまだ明るく、夕食までに40分の時間があった。部屋に荷物を置いて早速網を片手に飛び出した。さすがは自然保護が厳しい国だけあって、ホテルの中庭に子供連れの野ウサギが遊んでいた。庭の周囲は金網と有刺鉄線で囲まれ、その外の荒れ地に白い蝶が飛んでいたが中へ入れない。グルッと回ってみると1ヶ所破れたところがあり、そこから出て外の麦畑に飛んでいる蝶を狙った。モンシロである。日本のモンシロよりやや小型、5頭を捕らえ先ずは幸先よしと満足。

翌日からはリュックに道具を離さない。「釣り竿ですか？」と同行の客の問いに「ライン川の大きいヤツを釣ろうかと思って」と先ずは冗談。ドイツやスイスは畑と牧場が多い。広い牧場のあちこちに飛んでいる姿が見えるが、バスの車窓から眺めるだけで捕れないのが残念。朝は7時半出発、夜20時着で「夜の蝶？」が眠りに就き「昼の蝶」はまだ目が覚めない時間帯の行動、加えて昼食の時間も極力節約の強行軍であった。

5日目の5月10日、ミュンヘンを過ぎてホーエンシュバンガウの村に入る。これから小高い山の上にある有名なノインシュバンシュタイン城の見学であるが、麓からは専用のシャトルバスで登るのである。そのバスの待ち時間に近くの牧草地へ飛び込んでみるとスジグロが飛んでいた。早速2頭を捕らえたがバスの出発時間となり中止。城の内部を見学の後、麓まで約3kmの坂道を歩かなければならない。見ると林の中に飛んでいる。これ幸いと狙って見たが4種類、6頭すべて逃がしてしまった。坂道を下ったところのレストランで昼食となったが、食事が運ばれてくるのがもどかしい。どうにか配られた食事をかき込み外へ飛び出したが、先刻の林まで戻る時間がない。近くの草むらでスジグロを追い3頭目。次いで小さなシジミをゲット。同じく2頭目を捕らえてみると蛾であった。次いでスジグロ最後の1頭をと捕らえてみると、意外にもヤマキであった。

以後有名なスイスアルプスのユングフラウヨッホとシャモニーのモンブランへ登る車窓からは、多数の蝶が見えたが捕れないのが残念。この旅の収穫は次の通りであった。

モンシロチョウ	5頭	エゾスジグロシロチョウ	3頭
ヤマキチョウの仲間	1頭	チョウセンシロチョウ	1♀
ホリイコシジミに似た蝶	1頭	ホリイコシジミに似た蛾	1頭

《いしはた まさお 〒928-0001 輪島市河井町1-17-1》

1999年沖縄石垣西表採集記（その2）

笹川 忠志

■10月4日 石垣には午後1時55分到着。レンタカーを借用し、高田（タケダ）林道へ向かった。午後3時頃になっていたのでチョウは少なかった。「スジカバもリュウアサもない。シロチョウも、タイワンキチョウかキチョウ程度だ」とブツブツ独り事を言いながら林道を歩くと、センダングサに黒い影。ヤエヤマムラサキの美しいメスであった。沖縄本島でツمامラサキマダラを見慣れてしまったので、ヤエヤマムラサキの青いメスを異様に感じた。1オス3メス採集。ホントにチョウは少なかった。オモトの合流地点から今度は上の高田林道（舗装）を引き返した。かつてマサキとヤエヤマの両Ypthima多数発生した斜面も探索したが何もいなかった。下草を叩いていると大きな白いシジミが飛び出した。「Jamidesだ」と思い、葉上に静止した個体を確認するとシロウラナミシジミ。ネットインするとメスであった。結構ヤエヤマムラサキが多く、時間が早ければ相当な個体数が確認出来るのではないかと思った。ヤエムラに混じってツمامラサキマダラもチョコチョコ顔を出す、やはり本島の比ではなかった。ヤエヤマカラスアゲハが結構多いが、他のアゲハは全然ダメであった。今日はこの程度にして「なぎさ荘」に行く事にした。石垣島では、「チョウ屋・虫屋＝なぎさ荘」と言う方程式になっている。なぎさ荘の純子ママはウワサの美人で、実際今よりもっと若い時は本当に綺麗な方であった。1泊1食（朝食）で5000円、素泊まりだともっと安い。

10月4日 沖縄県石垣市名蔵高田林道

ヤエヤマムラサキ	1♂3♀	ツمامラサキマダラ	3♂2♀
シロウラナミシジミ	1♀	ミカドアゲハ	多数目撃
コウトウシロシタセセリ	3頭		

■10月5日 昨夜色々と話が盛り上がった有名な蝶屋の方を車に乗せ、高田林道に行った。ヤエヤマムラサキばかりでバットしない。こうなったらどれだけ採集できるか。24♂2♀と言うところまでわか雨。川平へ廻り何かいないかと散策し、シロウラナミ1♀とオオゴマダラやヤエヤマムラサキ。川平ではリュウキュウムラサキが、ほとんどの三叉路の様なところで見張っているの直ぐに飛び出す。今はどうも世代後退時期で、ボロ、スレが多くつまらない。本島でも採集したリュウキュウムラサキの大陸型を発見したが、林間へ逃げてしまっただけ残念無念。大陸タイプはシロヘリがあるので、一見キベリタテハみたいで結構エキゾチックである。南の島で採集されるポリナ程、たくさんのタイプが出現する種はいない。タイワンタイプ、フィリピンタイプ、原亜種、さらにそれぞれのハイブリッド等々、小生は勝手に東洋のアグリアスと決め付け、ポリナはことごとく採集する事にしている。その内に、フィジーに居る様なゴールデンポリナが採集されたら素晴らしい事だと思っている。雨はその激しさを増し、長い時間継続する様になってきたのでチョウも飛ばず早

めに切上げた。コノハチョウ1頭を高田林道で確認したので、明日はトラップでも掛けてみようかと思った。トラップ用のストッキング、バナナ、リンゴ、黒糖、泡盛を買い込み早速部屋でトラップの作成（パンストの購入には抵抗がありますなア）。ビニール袋に泡盛を入れて、ストッキングの果物を突っ込み上をセロテープで固定し、ビニール袋の上からバナナや黒糖を潰し泡盛と良く混ぜる合わせる。テラスの暑いところに放置し醗酵させればOK。更にトラップを掛けた場所の周辺に、泡盛を撒き散らしておくことも忘れずに。

トラップ作成のポイント

- 1) バナナは南米産ではなく地元の小さいタイワンバナナ
- 2) ストッキングにはバナナ3本程度を入れる
- 3) バナナとパイナップルの合わせトラップが最も良いとのこと（リンゴはだめかも）
- 4) 黒糖を混ぜる（必須）
- 5) 泡盛を混ぜる（ウイスキーやブランデーでも良い）

10月5日 沖縄県石垣市名蔵高田林道

ヤエヤマムサキ	32♂6♀	タイワンキチョウ	11♂8♀
コノハチョウ	1♀確認	リュウキュウヒメジャノメ	4頭

10月5日 沖縄県石垣市川平

リュウキュウムラサキ	5♂	オオゴマダラ	1♂
シロウラナミシジミ	1♀		

■10月6日 今日は1日中採集三昧なので、まず早朝トラップ掛けを行った。昨日のコノハのポイント近くや、過去から良く知られているポイントへ仕掛けた。午後の2時過ぎからは、ミカドアゲハの習性からそろそろ体温が上昇したので吸水を始める頃だと思い、集団吸水場所へ向かった。林道の分岐から河原に出て度肝を抜かれた。ミカドアゲハの集団吸水で、なんと50余頭以上は居るではないか。良く図鑑や雑誌に、西表のマリユードやカンビレー周辺のミカドアゲハの集団吸水の写真が掲載されているが、この集団はそれ以上であった。ラオスや東南アジアでグラフィウムやアピアスが集団吸水しているが、それを彷彿するような見事なものであった。残念ながらカメラを持参しておらず、撮影はできなかったが35頭程採集した。ヤエヤマムラサキはその姿を見せ続け、「ヤエムラの大発生とはこの様な事を言うのだなア」とため息を付きながら林道を後にした。

10月6日 沖縄県石垣市名蔵高田林道

ミカドアゲハ	35頭	オオゴマダラ	1♂5♀
ルリタテハ	数頭目撃	ツマベニチョウ	1♀
スミナガシ	数頭目撃	シロウラナミシジミ	1♂目撃
ヤエヤマイチモンジ	1♂5♀	コウトウシロシタセセリ	5頭
ヤエヤマムラサキ（ツマジロ）	72頭	オキナワリチラシ	1♂
リュウキュウムラサキ	1♂	サツマニシキ	1♂
コノハチョウ（トラップ）	1頭		

■10月7日 今日からは西表である。本島の3日目にシューズがダメになっている事に気が付き、石垣でダマシダマシ使用していたが限界だった。昨日レンタカーを返却する道すがら、T S O Cがある事を思い出し靴の購入に走った。G T ホーキンスのトレッキングシューズ27.5cm 5,300円があったので即刻購入し、壊れた靴は石垣島にてポイ。今日は新しいシューズで、心機一転西表へ行く事になった。石垣観光フェリーAM8:10発の高速船で西表へ。台風20号の遠い影響で、外海になったところで少しウネリがあり大きく揺れたが、およそ40分で大原港（仲間川）へ到着した。やまねこ（東部交通）レンタカーの車が準備されていたので（予約しておくで車が駐車してある）それを運転し事務所へ手続きに行く。14万キロも走破している車なので、左のフロントドアはロックしても半ドアランプが点燈するし、トランクは思い切り閉めないでロックしないのである。かなり荒っぽく使用されたらしく結構キズが多かった。予約の時に「グレードが低い車でOK」と言った手前、仕方がないと諦めたが、賃借料金は非常に安く済んだ。

最初は例の迷マダラのサロン、南風見田（ハイミダ）へ。環境が著しくダメになっている事を聞いていたが、まさしく過去に何10頭も迷チョウが採集された小道は、消失し畑になりオモシロくない環境になっていた。

次は仲間川林道。日本で一番チョウが多いと言われている西表であったが、石垣島同様非常に少ない。まだ夏枯れが継続しているのだろうか。今年の八重山はどの島もチョウが少なく、この傾向はずーと継続していると色々な人から聞いていた。環境が著しく悪化した為か、気象条件や個体の消長による一時変化なのか。もし今後復活の兆しがないと言う事になれば、かなり深刻な事と受け止めなくてはならないだろう。復活を願いたいものだ。古見にてシロオビヒカゲを探索したが、ダメであった。根性がないのだろうか。そうこうしている内に夕方になり、竹盛旅館へ向かい1日目の西表は終了となった。（2000年になって仲間川林道は採集禁止になったが、許可はすぐ取れるようだ。）

10月7日 沖縄県八重山郡竹富町西表島仲間川林道

リュウキュウラボシシジミ	1頭	リュウキュウヒメジャノメ	5頭
マサキウラナミジャノメ	5頭	ツمامラサキマダラ	9♂3♂
イワカワシジミ	1♀	ヤエヤマムラサキ	13♂2♀
ヤエヤマイチモンジ	3♂3♀		

■10月8日 今日は西表西部を探索。白浜林道が酷い状態と聞いていたので、この目で確かめたかった。また、白浜トンネルができたので、旧道が石垣の万勢山林道の様な雰囲気になっているので、そこも探索したかった。途中、高那の森へ潜る人達の車が乗り捨てられていた。高那のジャングルには、相当に人間が入っているのが想像できる車の数であった。知人もヒウメウラボシシジミを数頭採集したと聞いたし、西部の竹盛旅館にいても情報は直ぐ入る。中には、独りで十数頭も採集した”ツワモノ”が居るとの事であった。ユ

ツンやインダ船浦で寄り道したが、なぜか勘が働かず良い結果が出ないままに白浜に到着した。旧道に入り、林道入口に駐車し林道を歩いた。木が茂り過ぎており、暗い林道はマサキ・ヤエヤマウラナミとクロアゲハ程度しかおらず、リュウキュウアサギマダラがふわりふわりと飛んでいた。余りオモシロくない林道なので、早急に引き返し白浜まで旧道の両脇をチェックし探索した。西表は石垣よりツمامラサキマダラが多い。本島のツمامラサキマダラは余りにも個体数が多いのでかなり小さい（ヤエヤマムラサキと同じ程度か少し大きい）のだが、西表のツمامラサキはやはり迷チョウらしく結構大形の「ルリマダラ」と言う感じであった。旧道の峠付近で、少々大形のルリマダラが樹高を飛翔している。ツمامラサキマダラとは明らかに違う。一定の空間を往復しヘアペンシルを出しながら飛翔している。翅の格好からマルバネかなと思ったが、採集しないと何んともいえない。慎重に待機し、下降してくるタイミングをネット一振り。ネットインした個体を取り込むとマサキ（ホリシャ）ルリマダラであった。迷チョウをゲットすると結構気持ちがハイになるものだ。そのまま白浜の集落へ。デリスが多い場所でテツイロビロードを探したが、真昼では居るはずもなく、更に色々な人が入っている様で荒れていた。更にそこは中学校の裏手なので、中学校の関係者と近くの住民が「採集禁止」の看板を掲げている。タテハモドキやオジロシジミを少々採集し、また旧道へ戻ったのである。「二匹目のどじょう」と言う諺があるが、白浜峠に差し掛かり、何気なしに写真を撮影したら上空を滑空する黒い影。「またいた。今度は何か」急いでネットを出し採集タイミングを図りながらネットイン。取り出すと今度はマルバネルリマダラのオスであった。台湾や東南アジアでは、超普通種なのであろうが、西表島で発見、採集となれば結構気持ちがハイテンションになるものだ。（白浜の集落やシロウラナミシジミの発生地での採集は、特にマナーを守り周りに注意すべきである。）

竹盛旅館では、小生の両親世代でまだガンバッテ採集している京浜昆虫同好会OBの方に懇意にして戴き、台湾キマダラのポイントを伝授して戴いた。つづく。

10月8日 沖縄県八重山郡竹富町白浜

白浜旧道

マルバネルリマダラ	1 ♂
マサキルリマダラ	1 ♂
ツمامラサキマダラ	3 ♂ 2 ♀
白浜集落	
オジロシジミ	4 ♂ 3 ♀
タテハモドキ	10頭
ヤエヤマムラサキ	1 ♂ 2 ♀
ミカドアゲハ	2 ♂

白浜林道

ジャコウアゲハ	1 ♀
ヤエヤマムラサキ	1 ♂ 1 ♀
シロオビヒカゲ	1 ♂
ヤエヤマウラナミジャノメ	2 ♂
マサキウラナミジャノメ	8 ♂

《ささがわ ただし 〒167-0031 杉並区本天沼1-2-5》

採集はベンツに乗って

白峰は大杉谷のボコボコ道、雨が降らないものだから、車を通るたび、もうもうたる土煙。林道脇からは、ススキや木の枝が顔を出す。愛車では、こんな所へ行きたくないものだが、ムモンア力の為ならばと入っていくと、見覚えのあるベンツ。世の中にはおらかな人もいます。

輪島で一八〇〇頭マーキング

今年の夏はアサギマダラが多く、そして暑かった。こんな中で連日のように鉢伏山に通い続けた輪島の日吉氏、なんと千頭近いマーキングをやつてのけた。金沢からは松井氏も押し掛けて、真夏のマーク総数は一八〇〇頭とちよつと。これだけの数なら、秋には再捕獲情報が数件入ってくるだろう。

釈迦林道のゲイシャとサムライ

石川県ではなかなかお目にかかれない芸者と侍、遭遇す

るには釈迦林道が最も可能性が高い。今年も何人かが双方に会っているが、気むずかしい侍は確率が低い。

サムライはブドウ好き？

県内ではまだまだ珍しいエルトテハだが、釈迦林道では年に何頭かは目撃されるようになった。このサムライ、手つ取り早くトラップでおびき出そうとあの手のこの手のトラップが用意されたが、サムライのお気に入りにはブドウの皮だったとか。

鉢伏山のとんでもない蝶

輪島の日吉氏にとって鉢伏山は庭も同然。ネット片手に通つてると、とんでもない蝶に遭遇。ネットを構えるがなかなか止まらず、近づいたところを一振りしたが、見事に空振り。この日から蝶が頭にちらついて、夜もなかなか寝付けない。おびき出そうと、トラップをセットしているが、そう簡単には姿を見せない。この蝶なんだろう。

能登地方のオオムラサキ

広い能登半島、オオムラサキが記録されている場所は、北から珠洲市、輪島市、鹿島町、志雄町、押水町と少ない。いずれの地、特に輪島では盛んに調査されているが近年の観察例は無い。今年は志雄で観察されたが、これが県最北の記録になるのだろうか。

大量マーキング効果がジワリ

鉢伏山で大量マークのアサギマダラ、ぽつりぽつりと再捕獲されている。まずは宝立山で三頭、ついで宝達山で一頭記録された。宝立は約十七キロ、宝達は約六十八キロと移動距離は伸びてきたが、効果が出るのはこれから。さて、何処から連絡が入るやら。

今年も今からツマグロヒョウモン

ツマグロは、十月から目立って増えてくる。去年は金沢以南至る所で観察されたが、能登ではあまり観察されなかった。今年はどこまで広

がっているのでしょうか。口能登、中能登、奥能登とベタッと居るのはどこまでか。

例会の記録

八月三日（木）城南管工二階にて八時から開催。

今回は、人為的な環境とは関係の薄いヤマクロシジミについての発生地レポート。発生地は法尻に崩土が堆積するような不安定な法面。法面にはわずかな植生があり、ヒョロリと伸びたススキに卵がベタベタ。ポイントには狭いので、植生が貧弱な不安定な法面の調査が産地発見の鍵。

その他の話題では、トチのウロからオニホソガ、カミさん同伴でブラジルと北京、カミさん旅行で独身気分、河川敷でクロコノマ、ガツポリ採れたカラフトセセリ、内川ダムも交通規制、ネットで情報収集などなど。

参加は、生田、中西、松井、井村、山岸、指田、吉村、横山（TEL）、細沼（TEL）の九人。
【表紙デザイン…小幡英典】

会員の動き・しゃばの動き

石川県版RDBを販売中
動物編、植物編の「いしか
わレッドデータブック」が、
石川県情報サービスセンター
で販売されている。動物編は
一五五頁二九四〇円、植物編は
三五八頁四三〇〇円。詳細は
〇七六(二三三)九三三九へ。

パキピドのウロからギガンティア
井村会長、パキピドを狙っ
てウロ覗きをしていると大き
なハチ。思わず首をひっこめ
たが、ハチなど居る訳が無い
と再度覗けばギガンティア。
採集時は四十ミリで、乾燥し
たら三ミリ縮んだらしい。

DNAから見たギフチョウ属
これまで、ヒメギフが日本
に侵入した後、ヒメギフから
ギフが分化したとする説が有
力だった。しかし、DNA解

析の結果では、祖先種からま
ずギフが分かれて日本に隔離
され、ついでシナギフ・オナ
ガギフ系とヒメギフ系に別
れ、ヒメギフが日本に侵入し
たのはギフよりずっと後らし
い。詳細は、指田氏の持つて
いる英文の別刷を読むこと。

初メールの宛先はドイツなり
情報収集にとインターネッ
トに接続した山岸氏、まずは
Eメールに挑戦。初メールの
宛先はドイツだったとかで、
さすがに医者は違うと思っ
たら、ドイツの親戚に奥さんが
滞在中だったとか。

アオタマムシは猛暑の中で
阿武隈のアオタマを狙った
タマムシグループだったが、
井村会長が猛暑に日和り、細
沼、中西、松井の三氏で現地

入り。炎天下、ビーチパラソ
ルの中から御神木を眺めてい
ると、汗がやたらと流れてく
る。照り返しが強く白っぽい
地面がまぶしい。汗を拭い、
ふと気が付くと御神木にキラ
リと光るものが。

ヒラタを探してクロコノマ
吉村氏、ヒラタクワガタを
狙ってヤナギの樹液回りをし
ていたところ、クロコノマが
樹液に来ていたらしい。2匹
目のドジョウを狙ったが、ヒ
ラタは採れても、クロコノマ
は採れない。

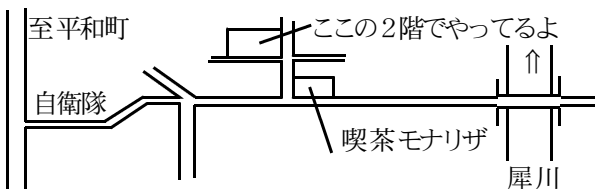
海岸線の怪しげなおジサン
海水浴客で賑わう海岸線、
何処を向いても水着姿で楽し
げな歓声が響いている。こん
な所を、暑苦しい姿でぶらつ
くおジサンひとり。一般客か
ら距離を取り、汗を拭きつつ
何かをうかがっている。怪し
い。絶対に怪しい。誰とは言
わないが、新種ハマゴウノメ
イガの分布範囲を調べている
らしい。

翔 146号

Tobu 2000年10月1日発行
百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>
金沢市大場町東871-15 松井方
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (146号)

松井正人：能登地方でシータテハの夏型を採集	1
松井正人：羽咋郡志雄町でオオムラサキの飛翔を観察	1
嵯峨井淳郎：ニホンカモシカの死骸に群がる蝶類（2）	2
嵯峨井淳郎：白峰村三ツ谷でクジャクチョウを採集	2
井村正行：石川県産マグソクワガタの追加記録と一知見	3
井村正行：ナカブサツチピロウドムシの追加記録	3
石畑正夫：ドイツとスイスアルプスに蝶を追って	4
笹川忠志：1999年沖縄石垣西表採集記（その2）	5
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	10